

授業科目名	授業形態	単位数	担当教員名
教育実習事前・事後(小)	演習	1	宇賀神 一 ・ 西川 恭一

記載不要

【授業のテーマ及び到達目標】

テーマ:教育実習は、教職課程で学んだことの総仕上げをする体験学習の場であるとともに、自身の課題を発見する場である。ただし、体験学習の場とはいえども、現場の教員と同様、子どもたちに多くの影響を及ぼす「先生」でもある。この授業では、教育実習で必要とされる具体的事項を事前に学び、実習終了後は、各自の体験をふりかえりながら、教師という職業についてさまざまな角度から理解を深めることを目指す。

到達目標:

- ①教育実習がもつ意味と責任の大きさを説明することができる。
- ②教科指導、生徒指導、学級経営などの実践的な観点から教育実習の目標を設定することができる。
- ③作成した授業計画に基づき模擬授業を実施することができる。
- ④事後指導に教育実習の経験をふりかえり、設定した目標に照らして評価を行ったうえで、自身の課題を具体的に述べることができる。

【授業の概要】

事前指導では教育実習生としての学校の教育活動に参画する意識を高め、教育者としての愛情と使命感を深める。前期12回実施し、講義はレジュメおよび映像資料などを用いる。模擬授業は演習形式で行う。

事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題などを省察するとともに、将来教員になるうえでの能力や適性を考える。後期3回実施する。

【全体の授業計画・内容】

〈事前指導〉全12回

1. 教育実習の目的と意義 [宇賀神]

事前学修課題:シラバスを熟読する。教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5時間】

事後学修課題:授業内容をふりかえり、教育実習のもつ意味と責任の大きさを確認するとともに、教育実習に関連した今後の予定について整理する。【0.5時間】

2. 教育実習の内容 [宇賀神]

事前学修課題:教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5時間】

事後学修課題:授業内容をふりかえり、教育実習のもつ意味と責任の大きさを確認する。【0.5時間】

3. 教育実習の心得 [宇賀神]

事前学修課題:教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5時間】

事後学修課題:授業内容をふりかえり、教育実習のもつ意味と責任の大きさを確認する。【0.5時間】

4. 小学校現場の現状理解 [宇賀神]

事前学修課題:教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5時間】

事後学修課題:授業内容を復習しながら、教育実習に臨む目標を検討する。【0.5時間】

5. 子ども観および教育観の確認[宇賀神]

事前学修課題:教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5時間】

事後学修課題: 授業内容を復習しながら、教育実習に臨む目標を検討する。【0.5 時間】
6. 教育実習ノートの書き方〔西川〕 事前学修課題: 教育実践に関するニュースや新聞の情報を意識的に収集する。【0.5 時間】 事後学修課題: 模擬授業の実施に向けて、授業計画を立案する。【0.5 時間】
7. 教育技術の基本① 模擬授業グループ A〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
8. 教育技術の基本② 模擬授業グループ B〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
9. 教育技術の基本③ 模擬授業グループ C〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
10. 教育技術の基本④ 模擬授業グループ D〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
11. 教育技術の基本⑤ 模擬授業グループ E〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
12. 教育技術の基本⑥ 模擬授業グループ F〔西川〕 事前学修課題: 模擬授業に向け授業計画を作成し、授業の準備を行う。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業をふりかえり、課題を明確化する。【0.5 時間】
〈事後指導〉全3回
1. 教育実習体験の振り返り: 実習生全員〔宇賀神〕 事前学修課題: 教育実習の経験をふりかえり、事前に設定した目標に照らしながら、課題を明らかにする。【0.5 時間】 事後学修課題: 次回授業に向けて、教育実習での学びを構造化(見える化)する。【0.5 時間】
2. 教育実習体験の交流: 実習生全員〔宇賀神〕 事前学修課題: 教育実習での学びを構造化(見える化)する。【0.5 時間】 事後学修課題: 他の受講生との意見交換から学んだことを文章化し、自身の課題をより明確にする。【0.5 時間】
3. 個人面談〔宇賀神〕 事前学修課題: 教育や子どものことに関する書籍を読み、教育実習を経験したことで自身の子ども観や学校観がどのように変容したかを検討する。【0.5 時間】 事後学修課題: 授業および教育実習全体を総括する。【0.5 時間】
【学習のあり方】 教育者・保育者は子どもの育ちに責任があるということ、教育者・保育者である自分の言動が子どもに対して善悪交々の多大なる影響を与えることを自覚すること。そのうえで、子どもが育っていくことに自分がどのように関わっていくことができるのかを想定しながら、その時々課題を熟考し、質問や意見など積極的に発言し、授業やグループワークに参加すること。 事前事後指導はすべて出席すること。事前指導を1回でも欠席したものは教育実習に行くことができない。日頃から健康管理と早めの行動を心がけること。

【成績評価】

提出物(授業内レポート、教育実習レポートなど)(20%)、授業態度(30%)、模擬授業(50%)

【課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法】

授業内レポートについては、次回授業の冒頭でフィードバックを行う。また、最終授業時にも行う。

【テキスト】

レジュメおよび資料を配布する。

【参考文献】

授業中に適宜指示する。

【実務経験の有無】